

審判員派遣報告書

派遣事業名	第76回全日本大学 バスケットボール選手権大会	派遣期日	令和6年12月4日～5日
報告者	高田 開	派遣先	横浜武道館

1. 大会概要

大会名称	第76回全日本大学 バスケットボール選手権大会	大会期間	令和6年11月30日～12月15日
大会概要	各ブロック大会、リーグ戦の順位を元に出場チームを決定。3チームずつリーグ戦の のち、シード校を加えて決勝トーナメントを行う。		

2. 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和6年12月4日	会場	横浜武道館
審判クルー	CC：大井 氏（埼玉） U1：早川 氏（新潟） U2：高田		
担当試合	（決勝 T 男子 1 回戦）九州共立大 vs. 中京大		
試合内容	立ち上がりは拮抗した展開だったが、高さを活かした OF で徐々に中京大がリードを 広げる。第3Q終了間際に九州共立大も流れを引き寄せたが、終盤のシュート精度で 上回った中京大が勝利。		

日程	令和6年12月5日	会場	横浜武道館
審判クルー	CC：東條 氏（東京） U1：飯塚 氏（神奈川） U2：高田		
担当試合	（決勝 T 男子 2 回戦）日本体育大 vs. 拓殖大		
試合内容	シード校のため初戦となる日本体育大に対し、序盤の積極的なアタックで僅差を保 った拓殖大。2Q以降、DFの強度、リバウンド、速攻で圧倒した日本体育大が大差 をつけて勝利。		

3. 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

●大会従事での学び

担当した2試合とも、PGCではヘルプディフェンダーのプライマリについてケースごとに確認を行った。ストロングサイドのヘルプディフェンダーは原則リードオフィシャル、ウィークサイドのヘルプディフェンダーは原則センターオフィシャルが捉えるが、センタープライマリからドライブが開始された場合、センターオフィシャルはプライマリマッチアップを放すことができないためリードオフィシャルがヘルプディフェンダーの確認を協力する。また、トランジションシチュエーションではヘルプディフェンスの概念がないためリードオフィシャルがプライマリとしてバスケットに向かってくるプレーに判定を行うことを確認した。また、注意したいポイントとして、二人の審判が同時にコールしたとき、アイコンタクトを取りすぎるあまり間を作ってしまうことを避けたいとした。そのために、各々がプライマリとしてコールしているかセカンダリとして判定に加わっているかの共通理解が必要で、そのために前述のようにヘルプディフェンダー等いくつかケースを挙げて確認を行った。ビッグインパクト等では、二人以上の審判がコールすることがあるかもしれないが、その際にシグナルの前にホールドしアイコンタクトを取ることは差し支えないが、指さし等でプライマリをその場で確認することはなるべく避け、プライマリが自覚をもって強くシグナルすることで、クルーで明瞭なプレゼンテーションを心掛けるための準備を行った。（デュアルな場所でのダブルコール等はこの限りではない）

試合後の反省として、ファウルを受けたプレイヤーの過度なリアクションへの対応が挙げられた。適切にファウルコールができていても、ファウルを受けたプレイヤーの振る舞いに対しても同様に処置を行わなければ、ファウルをしたチームからは「ファウルドロード」と思われ、ファウルとしては成立しているにもかかわらず納得が得られないというケースがあった。まずはファウルの判定およびフェイクの見極めを行い、その後の振る舞いについては程度をみて、ファウルを引き出そうとする行為をやめるようコミュニケーションもしくはワーニングを行うことで、両者のコントロールを失わないようにする必要がある。

4. その他

この度は、表題の大会に派遣いただきまして誠にありがとうございました。日々ご指導、サポートいただきありがとうございます。深く感謝申し上げます。

今大会で得られた学びを自身の活動に生かし、皆さまに共有して参ります。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。